

しんらん同人

NO, 503

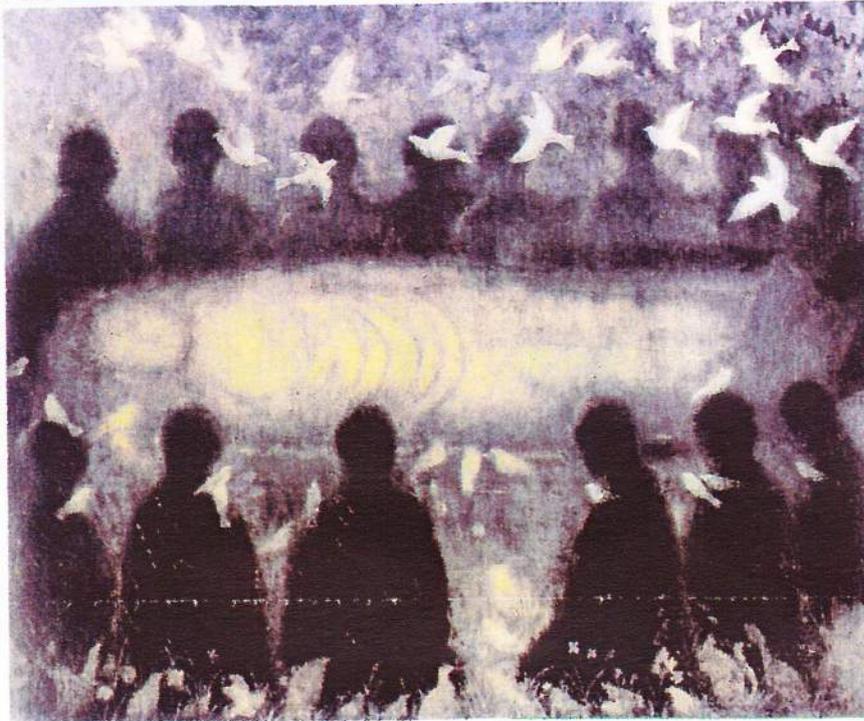
4月号

二〇一三年四月一日発行 郵便番号171-0052  
 発行所 東京都豊島区南長崎一の三の八 誓願寺  
 TEL 3650 7828 FAX 3650 9820  
 E-MAIL SEIGANJI@RESET.JP

## 入涅槃幻想

平山郁夫

義父の死に遭い、亡骸を囲む光景を見て釈尊の死に通じる、充足感に満ちた静かな悲しみを感じ、この作品は釈尊が光となって弟子たちに降り注ぎ、羽を休めあるいは飛び交う小鳥たちが、静まり返りながらもなお動揺する弟子たちの心をあらわしている。



## 濁世

(じょくせ)

地震、公害、交通事故、殺人、毎日ため息のつきどうし、心の休まる時もないほどですが、一面いつの間にか慣れっこになってしまつて、余り感じなくなっている面もあります。

濁世といわれます。まったくそのとおりです。この汚れた世に苦しむ人々を救うのが、僧侶ではないでしょうか。

これらの悲痛な問題への解答は出せないのか、僧侶は何をしているのだ。と非難攻撃、鞭撻してくださいることは有難いこととあります。これに反して、数々の難問にたいして僧侶に答えを聞くどころかまったく問題にされていなくて未だるようです。坊主に何ができるかは未だいい、まったく無視されていることが悲しいこととあります。

坊主の無視は、そのまま仏への無関心でありましょう。仏教に聞こうとしなくなつた原因は僧侶にあります。正しく伝えようとする努力がないからです。坊主が無視されるのは当然のこととあります。

僧侶の一人として全く頭があがりません。

歎異抄にもあるとおり、親鸞聖人が関東から京都へお帰りになった後、関東教団で「造悪無碍」異安心がはびこり大きな動揺が起りました。

その時親鸞聖人は「念仏者の信と結合が真実であれば、権力層もどうすることもできない、念仏は無碍の一道である。しかし念仏者の信が確立されていなければ、念仏者が念仏者を傷つけることになる。それは獅子身中の虫が獅子を食い殺すようなものである」と仰せられ、「仏法を弾圧する者は、無眼人、無耳人であるから道理の通じる相手ではないが、その人たちを、あわれみ、不憫に思つて念仏するより外はない」

「要するに、御身に限らず、念仏申す人々は、ご自身のためとお思いにならなくても、朝家の御ため、国民のためにと、念仏申し合はされるなら結構です。往生について不安に思われる人は、まづ自身の往生を願つてお念仏なさらねばなりません。そして自身の往生一定と思われ方は、その上に仏の御恩を思い、御恩報謝のため念仏申し、世の中が安穩になるよう仏法が広まるようにと念ずべきであります。



## 素直な心

物質文明的な考え方が段々と強くなり、人間にとって大事な心の問題が薄らいでいます。

だから半面では親を親とも思わず、世の中のおかげで生きているとも考えずに、好き勝手なことをしてもよいという風潮となっています。

先生を尊敬しない、袋叩きにする、親に楯突く、考えられないようなことばかり起きています。道

で擦れ違った人を傷付けたり、お風呂帰りの人をいきなり刺し殺したりします。犯行の動機は薬を飲んだから、短刀を買ったばかりなので切れ味を試したかったから、というのだから話しにもなりません。

むかしは犯行には動機がありません。いまはそんなものありません。あいつが憎いからではなく、風呂からあがり気持ちよく帰る人をいきなり刺すのですからまったくひどいです。

なぜそうなったか。宗教心が薄らいだから、手を合わせることを忘れたからではありませんか。

合掌は勿論仏教特有のものではありませんが、手を合わせることは大事なものの尊いものをいただく姿です。合掌する姿に拳骨はありません。相手をやつつける、叩きのめしてやろうというものではありません。有難うございますといただいた姿です。その生き方が仏教の根本的考え方です。

ところが最近その姿がほとんどなくなりました。恵まれていたものを素直に有難いと受け取れない。

古いものは捨てて新しいものを次々と求めればよいとなるのですが、これもどこかでかならずいきづまります。欲望には際限がありませんから、どこかでぶつかってしまいます。

「ただ念仏して禰陀に助けられまいらすべしと、よき人の仰せをこうむりて信ずるほか別の子細なきなり」

恵まれ、生かされ、いつも思っ  
て下さる仏さまのお慈悲を有難うございますといただくより他にはないと親鸞聖人は申されま  
す。

南無弥陀仏という字句が使われると別なもののようにですが、光明無量・寿命無量なるものを阿弥陀と名付くと經典にあります。光明無量とは智慧と光りが限りない、寿命無量とは命が限りない、時が無限である、慈悲が限りない、これが阿弥陀さまです。私たちはその阿弥陀さまのお慈悲の中で生かされています。となれば手を合わせて有難うといわざるを得ないではありませんか。なぜ合掌出来ないの

でしょうか。

俺ほど偉いものはないという心があるからです。ある人がいました。

「年を取ると人が尊敬出来なくなつた。人生経験を積めば積むほど、立派だ、尊いことだと仰ぐ気持ち薄らいでしまった」

「それはまたどうして…」

「そのような人はあれもこれも知っている。こういうこともした。やらぬことはないという気持ちになつているので、若者に向かえば『君たちは駄目じゃないか』と責めることはしきりにするが、わが身は驕慢の頂を段々と登つているとは気付かない。尊敬する有難いという心がすっかり失われてしまった」

仏さまの前で頭が下がりにくいの、自分が偉いと思つてい  
るからです。信ずるのも、救われるのも、みな自分のはからいで作り上げるのだとしています。

南無阿弥陀仏のみおしえは  
おごりたかぶりよこしまの  
はかろう身にて信ぜんに  
難きなかにもなおかたし

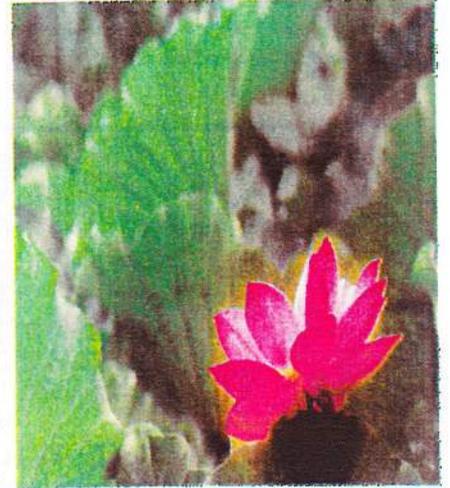
間違った考えでありながら間違っていないと固執し、人からいわれなくてもそんなことはない、私はこう考えたと主張します。まちがっていないと思うから驕り高ぶります。そういう人は仏さまのお慈悲を信じるのはまことに難しい。

「難中の難、これに過ぎたるはなし」です。仏の前に頭を下げて教えをいただくという謙虚さがないので。お慈悲がむつかしいのです。お慈悲がむつかしいのではありませぬ。受け取ろうとする自分が難しいのです。素直な心がないのです。自分が偉いと思っているからです。問題はそこからおこります。

## 「釈尚文」その二

三月九日に愛車マーチを駆って千二百キロ。無事誓願寺に到着しましたが、引越し荷物を整理する間もなく、僧侶としての実習が想像以上の過密な現状として待っていました。

法座でのお話。これは自己紹介と僧侶を志した経過報告でご勘弁いただきましたが、週末には通夜と葬儀への陪席等貴重な経験をさせていただきました。



まだ、皆様にお伝えする正しいご法義のない私ですが、一生懸命「十年前だったら出来たのに」というあきらめことを逆手に取った「十年後から見た、十年前が、今の時ではないか。だったら何でも出来る。」を、心の支えにして前向きに考え、行動したいと思っております。

このたびの私の決断には、周囲特に、坊守として誓願寺のお手伝いに参りました妻恭子も驚いておられますが、私自身は、余り違和感を感じたわけではありませんでした。

以前から、七十歳になったら、檀家のお寺で浄土真宗の事を少し勉強したいなあと考えて居りましたので、それが二年程早くなった

けど、と考え決断した次第です。

今は少し甘かったと反省いたしておりますが、後戻りはいたしません。思わぬ困難にも、正面から取り組み、道を探し、前に進む決意です。(自力の道を歩むのではありません。念のため)

私にとって、誓願寺の泰雄前住職と政枝元坊守、英子前坊守は、浄土真宗に私を導いた善知識です。「あの義父、義母、義姉が進まれた道を進んで行こう。たとえその先が闇であつても後悔はしない。」と言う、根拠のない確信がなぜかあるからです。

こんな私に、しんらん同人に寄稿する資格があるかどうかはわかりませんが、皆様のご指導の下一日でも早く、ご法義を正しくお伝えできるようにしたいと考えて居ります。

この時期、九州に比べると、東京は冷え込みますが、一日と春が近づきます。お花見を楽しみに日々を過ごします。

## 新しい納骨仏壇

今、生きているうちに、あなたの納骨仏壇を用意しませんか。核家族となり、親子の関係もだんだん変わりつつあります。安心して生きてゆくために準備が必要です。

そこで新しい納骨仏壇を作りました。これはお寺の方で永代に供養できる一人用の納骨壇です。一基二十万円で。百基作りました、場所等は先着順です。管理費は一年一万二千元です。早めにお申し込みください。



編集後記

◎ 高血圧で血糖値が高いとは、ここ十年ほどいわれていた、それらに対する薬は飲んでいた。他に病気はなく快適に過ごしていた。

◎ 三月五日、友人とゴルフに行き、ワンハーフ目にバンカーに捉り五打もたいき、テイクアウトして次のホールへ移動中、急にフラフラと座り込んでしまった。友人やキャディーがおかしいと思い救急車を呼び、病院に運んでくれた。

◎ 私自身は特に自覚症状はなかったが千葉の病院では心臓がおかしい、すぐ入院と言われた、自宅には、リキとナナがいるし、何とかお願いしてかえってきた。

四月御法座案内

十四日(日) 午前十時 聖典講座

正午 健康相談

講師 佐藤公彦医師

廿一日(日) 午前十時 なかよしくらぶ

廿三日(火) 十一時 歎異抄の会

廿八日(日) 午前十時 聖典講座

◎ 次の朝、佐藤医師の紹介で坊守が入院していた国立国際医療研究センター病院に診察をお願いしたところすぐ入院となり、法務や法座の依頼連絡で、あたふたし、病室でほつとした。

◎ 七日から血液検査、レントゲン、カテーター等毎日検査ばかり、心臓の弁に障害があることが判明し、すぐ手術はできないので二、三日後に今後の方針を決定することになった。

◎ 今、病院でこの原稿を書いている。病院は退屈なことこの上ない。ふと思いついた。前年七月に亡くなった坊守も一年間、ここに入退院を繰り返していた。坊守は大腸癌の痛みや目の

前の死の問題を抱え、不安な毎日をすごしていただろうと、自分が入院してつくづく感じた、私は痛みもないし治る可能性もある。

◎ 先日も書いたように「病気はお医者さんに、将来は如来様におまかせす

るか別に方法はない」と坊守がいつもニコニコしていたのを思い出す。

◎ 同じ環境中で、自分が病気になるか疑問である。「すべてをお任せした者のすばらしさ、信じるものを持つている強さ」をあらためて感じた。

◎ 私はまだまだそうなれない。そ

平成二十五年四月回忌法要

れを坊守はお浄土から見てちよつとも病気をしたらわかるだろうと還相回向し、働きかけてくれたのではないかと思う。これを機に病気というすばらしい体験をさせていだいた。一段とお念仏を味わい、一杯生きてゆきたいと思う。

◎ 三月十四日に退院した。

謹厳院 釈正諦	川瀬正一	85	1997	一日	十七回忌
威徳院 釈從順	都築從世	80	2001	一日	十三回忌
謙敬院 釈進徳	谷進	80	2012	四日	一周忌
浄泉院 釈成実	吉田実	82	1971	六日	四十三回忌
顕現院 釈清嚴	狭間清一	84	1991	七日	二十三回忌
慧眼院 釈尼浄恵	笠嶋彌恵	80	1989	九日	二十五回忌
信願院 釈温雅	中村国男	89	1989	十日	二十五回忌
明見院 釈覺雄	大西武雄	91	2011	十一日	三回忌
嚴浄院 釈静威	林静一	80	2007	十二日	七回忌
浄地院 釈尼妙和	窪田はる	87	1991	十六日	二十三回忌
誠敬院 釈勝修	大場久美	87	1987	十七日	二十七回忌
満徳院 釈智海	石川辰次郎	85	1981	十八日	三十三回忌
浄心院 釈尼妙文	井出文代	82	1987	十九日	二十七回忌
浄覚院 釈文雄	小幡文男	88	1981	廿三日	三十三回忌
独峰院 釈尼薰香	丹羽香	89	1997	三十日	十七回忌